



**MORIOKA**  
ROTARY CLUB WEEKLY

第11回例会(9月20日)  
平成25年10月4日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10  
川徳デパート内  
例会場 同上 TEL(651)1111(代)  
FAX(653)5622  
例会日 毎週全曜日12時30分～

会長 平井 滋  
幹事 平野 佳則  
会報 金子 真也  
クラブ直通電話 TEL(653)5682

Engage Rotary, Change Lives. 'ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を'…… Ron D. Burton



ゲスト卓話

## 「ボーイスカウトの人作り」

勸日本ボーイスカウト岩手連盟維持財団理事長  
日本ボーイスカウト岩手連盟副理事長

内宮 眞 様

今回ボーイスカウト運動についてお話しさせていただく機会をいただき、感謝いたしております。東日本大震災が起こる前年平成22年まで、長年にわたり日本ボーイスカウト盛岡地区では、貴盛岡ロータリークラブより毎年助成金をちょうだいしておりました。

小さい組織でたいしたことのない人間が運動に携わっているのですが、社会的には大きな期待を寄せられている最近の出来事などをご紹介いたします。

今年の8月に、4年に一度開催されるボーイスカウトの祭典である第16回日本ジャンボリーが、10日間にわたり山口県山口市でありました。約2万人のスカウトや指導者が日本中、世界中から参加しました。その大会の大集会の日には皇太子殿下のご臨席と励ましのお言葉、安部総理大臣のご出席とスピーチ、その他下村文部大臣や森喜朗元総理大臣、その他多くの国会議員の方々のご出席がありました。スカウト親善大使である王貞治さんの、少年時代にスカウト活動のような経験が大切であるというビデオメッセージが流されました。また、現役のボーイスカウトの指導者でもある宇宙飛行士野口聡一さんも出席し、スカウトたちに世界的なボー

イスカウト運動の素晴らしさなどについてのスピーチがありました。多くのロータリアンの皆様にもご出席いただきました。

ボーイスカウトの進歩の最高ランクに「富士スカウト章」というのがあり、それを取得したスカウトは、毎年3月末か4月に東宮御所や首相官邸、文部科学省を表敬訪問し、励ましのお言葉をいただく機会があります。特に昨年は、私の所属するグループの高校生は、4月と5月に2度も皇太子殿下にお会いし、お言葉を掛けていただく機会を持ちました。

かつて現文部科学省の生涯学習審議会が小学校高学年を対象におこなったアンケート結果では、

生活体験の豊富な子どもほど「正義感・道徳観が充実している」

お手伝いをする子どもほど「正義感・道徳観が充実している」

自然体験が豊富な子どもほど「正義感・道徳観が充実している」

という結果がでています。

ボーイスカウト運動は「人作りの運動」で、まさにこのアンケート結果にあるような「正義感・道徳観の充実した」子どもを育てる活動を

しています。多くの活動を「自らおこなうこと  
によって学ぶ」ことをモットーに、幼稚園年長  
の児童（男女）から大学生年代の青年まで一貫  
した教育方針に基づいて人作り、人格作りの活  
動をしています。ボーイスカウト活動が目指し  
ている人作りは、次の4つの資質を備えた人作  
りです。

①自主的である

自分自身で決定したり、自分の生活を管理  
できる。

②人の助けとなる

人の立場に立ってその人を支える。

③責任感がある

自分の決めたことの結果に責任を取り、約  
束を守り、自分で引き受けたことをやり遂  
げることができる。

④献身的である

その人作りのために、スカウト活動では「ち  
かいとおきて」の実践を心掛けるよう、活動を  
展開しています。「ちかいとおきて」は次の通  
りです。

【ちかい】

1. 神と国とに誠を尽くしおきてを守ります。
2. いつも他の人々をたすけます。
3. 体を強くし、心をすこやか徳を養います。

【おきて】

1. スカウトは誠実である。
2. スカウトは友情に厚い。
3. スカウトは礼儀正しい。
4. スカウトは親切である。
5. スカウトは快活である。
6. スカウトは質素である。
7. スカウトは勇敢である。
8. スカウトは感謝の心を持つ。

また、スカウト教育の独特の方法は次の3つ  
です。

①パトロールシステム（班制度）

②進歩制度

③野外活動

スカウト運動では1907年の運動開始当初か  
ら、個性を大切にしてきました。多人数・集団  
の中では殺されてしまう個性も、小さいグル  
ープの中では一人一人の子どもが個性を發揮で  
きると考え、異年齢の6~8人の小グループ(班)  
を活動単位とするパトロールシステム(班制度)  
を導入しました。班の中でリーダーシップを發  
揮する立場の子、従うことを覚える子など役割  
を分担し、活動に取り組みます。

それぞれの年齢に応じて、挑戦できること  
と挑戦して欲しいことをカテゴリー別に整理し、  
これに挑戦し、達成することによりバッジを授  
与され認められる絶対評価の進歩制度（バッジ  
システム）を取り入れています。子どもの進歩  
の評価は、一人一人の努力で評価され、他との  
比較で評価されることはありません。一人一人  
がどのように努力をしたかが大切です。

また、野外を「教場」としています。自然の  
美しさや厳しさ、偉大さなどから人間に計り知  
れない絶対的なものを感知させる場として野外  
活動を重視しています。野外で自らが、「行う  
ことによって学ぶ」のです。雨が降っても、雪  
が降っても野外での活動では、その場に対応す  
る能力が養われます。つらい危険な活動をお互  
いに助け合ってやり遂げる時、達成感や充実  
感を得ることができ、次のステップにも進むこ  
とができます。

ボーイスカウト運動は世界最大の青少年団体  
で、現在約2800万人が所属しており、今でも  
増加傾向にあります。しかし、日本の現状は昭  
和55年ごろがピークで、現在はその半分の約  
15万人になっています。岩手でもピーク時  
の約3分の1程度まで減っており、盛岡地区は  
かつて市内に6ヶ団、周辺町村に5ヶ団ありま

したが、今は市内に2ヶ団のみとなっております。この減少の原因として、外的な要因としては、学校のクラブ活動や進学塾の過熱、スポーツ少年団の誕生などが挙げられます。クラブ活動を休んでボーイスカウト活動に参加しようとすると、「内申書に影響するぞ!」という先生もいます。昔に比べてキャンプ場など、自由に使える活動の場が少なくなってきたこともあります。私の少年時代は、今の岩山ゴルフ場のあたりで勝手にキャンプをしたものです。内的要因としては、指導者数の減少と資質の低下。昔の指導者には、仕事中にボーイスカウト活動の計画を立てる人などおいて、それが大目にみられる時代でした。保護者とのコミュニケーションが重要な時代でもあります。昔は自分の意思でボーイスカウト活動に参加し、指導者は子どものことだけを考え、子どもとのコミュニケーションが取ればよかった。しかし、今は保護者にスカウト活動の目的や意義、活動内容の説明、子どもたち間のごたごたの説明等など、説明能力が求められます。結果の見えるものには、保護者は熱心ですが、ボーイスカウト運動のように人作りの運動は、何年後かに、あるいは成人してから「やって良かった!」という思いや、物事に取り組む姿勢、人に対する優しさなど、結果、変化がわずかずつです。活動参加を希望する保護者には、「子どもの変化、成長が分かる親になって欲しい。」とお願いしています。学校時代が終われば、この世の中は、勝ち負け、優勝や最優秀賞だけが通用する世界ではありません。また、中学校、高校では一つのスポーツ、一つの活動を月曜日から日曜日まで、毎日毎日行います。将来の人間としては、多様性に欠ける人間ができる気がします。

総務大臣などを歴任した竹中平蔵の著書「竹中流世界人のススメ」の中で次のように述べて、

ボーイスカウトにも触れています。

「齊藤ウィリアム浩幸氏という、日系アメリカ人のベンチャー投資家が、最近のベンチャー企業家について、かつてのベンチャー企業と大きく違う点があると指摘している。かつてのベンチャー企業のソニー、パナソニック、ホンダの共通点は、いずれも創業者にパートナーがいたこと。ソニーの井深大には森田昭夫、パナソニックの松下幸之助には井植歳男（サンヨー電機の創業者）という番頭格がいた。ホンダの本田宗一郎にも藤沢武夫がいて、経理を担当してホンダを支えた。ところが今のベンチャー企業には、パートナーがいないという。ビジネスにおけるパートナーは、最後は理屈を超えた運命共同体でなければならないが、こういう人物がいるかないかは、ビジネスの成否に大いに関係してくる。だが、最近の日本の企業化にはそういう人物を持っていないのだという。その要因は受験勉強だと、齊藤氏は指摘する。なぜなら受験勉強では、周囲が全員ライバルになる。友だちといえどもライバルで、しかも求められるのは暗記なので、最後は一人でやるしかない、ということになる。そう考えると、創業者に向くのは、受験勉強を一生懸命やった人よりも、ボーイスカウトなどで仲間と一緒に命綱を持ちあい、危ない思いをしたことのある人の方なのかもしれない。」

スカウト活動では、その時楽しい活動もしますが、その時は苦しくて、辛くても後になって思い出に残るような活動、命綱を持ちあう活動を、子どもたちにたくさん提供したいと考えています。多くの体験を積み重ねることにより、多様な価値観を醸成し、他の人に対する優しさや他の人の痛みを理解できる青少年の育成を心がけています。

これからもよろしく願いいたします。

## ロータリー米山記念奨学会研修会の報告

平成 25 年 9 月 8 日(日) 於：仙台市

地区内 80 余名が参加し、標記研修会が開催された。松良ガバナーの挨拶、感謝状伝達式、米山奨学生による近況報告が行われ、その後セミナーが開催された。

### ●米山記念奨学会について

講師：地区委員 白鳥 淳氏  
ロータリー米山記念奨学事業とは、全国のロータリアンからの寄付金を財源として、日本で学ぶ外国人留学生に奨学金を支給し、支援する国際奨学事業。これは、日本のロータリーの創始者、故・米山梅吉翁の偉業を記念し、後世に残るような有益な事業を立ち上げたいということで始まり、60年にわたって受け継がれている事業。全国の年間の奨学生採用数はおよそ 700 人、事業費は 13.6 億円(2012 年度決算)と、国内では民間最大の国際奨学事業。

### ●地区現況報告

講師：地区委員長 小嶋道夫氏  
【当地区の米山記念奨学生の現況】

2013 学年度…岩手地区 4 名、宮城地区 7 名、合計 11 名。

出身国…中国、韓国、ベトナム、マレーシア  
在籍校…岩手大学、東北大学、宮城大学、富士大学、宮城教育大学、東北工業大学、東北薬科大学

2014 学年度の奨学生選考試験を宮城地区と岩手地区に分けて実施する(平成 26 年 1 月)新規採用者は 11 名。なるべく多様な国・地域からの奨学生の採用と奨学生期間を 1 年とする。(海外応募者対象ロータリー米山記念奨学金募集)

この制度は新しい試みで 2012 学年度から 3 年間試行される制度。この事業が活発に行われるよう会員皆様のご協力をお願い致します、ということでセミナーを終了。

地区米山記念奨学会 委員 米内 正

## 例会報告

第 11 回例会  
平成 25 年 9 月 20 日(金)

- 於 川徳 12時30分 開会点鐘  
・司会 平井 滋会長  
・ソング それでこそロータリー  
・ゲスト 内宮 眞様(日本ボーイスカウト岩手連盟副理事長)  
・ビジター 村井紀之さん(盛岡西 R.C.)  
・誕生祝 荒道泰之君。  
・会長報告 平井 滋会長  
・幹事報告 樋山 桂副幹事

### 【他クラブ例会変更のお知らせ】

- 盛岡北 R.C.= 9 月 25 日(水)は、夜例会実施のため 18:30~ 時間変更。
- 盛岡西北 R.C.= 9 月 25 日(水)は、親睦夜例会のため 18:45~「ベル・オーブ」。

### 【ニコニコ BOX】

- ◆長澤 茂君…先日、山上さんに教えて頂いて入会依頼はじめてホテルの受付におけるメイキャップをしてきました。新しいことを覚えたことで少し後ろめたさを感じながらニコニコします。

- ◆福井誠司君…内宮さん卓話ありがとうございます。子供達の「生きる力」「正義感」「道徳感」を培うボーイスカウト活動は、今こそ求められるものであると思います。今後のボーイスカウトの発展と内宮さんの益々のご活躍を祈念しニコニコ致します。

### ●メークアップ

盛岡北 R.C.= 吉田(育)君。盛岡西 R.C.= 藤村(文)・星・勝部・高柳君。盛岡東 R.C.= 市丸・嘉本君。盛岡西北 R.C.= 樋山・若松君。クラブ委員会= 坂本・佐藤(重)君。

出席報告 会員数 / 69 名 出席数 / 39 名 出席率 / 60.94% 前々回修正出席率 / 80.3%

### プログラムの お知らせ

- ・ 10 月 4 日(金) ゲスト卓話 北川貞之 様(盛岡地方気象台台長)
- 11 日(金) 第 2 回クラブアッセンブリー
- 18 日(金) ゲスト卓話 高橋嘉雄 様(盛岡農業高等学校校長)

「盛岡農業高校の現状と課題」

- 本号編集担当 / 金子 眞也
- 次号編集担当 / 金子 眞也